

JForest

森林組合だより

平成30年6月30日

発行

第119号



農林中央金庫秋田支店との連携による植樹活動 (象潟町川袋地区)

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141(代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp

第24回 通常総代会 開催

【平成30年5月30日 ホテルアイリス】



平成30年5月30日(水) ホテルアイリスを会場に、第24回通常総代会を開催しました。

小松組合長の挨拶に続いて、秋田県議会議員小田美恵子様、由利地域振興局長様(代理)、由利本荘市長様、にかほ市長様(代理)、秋田県森林組合連合会代表理事会長様(代理)、農林中央金庫秋田支店長様(代理)から御祝辞をいただきました。

【第24回 通常総代会議案】

- 第1号 平成29年度業務報告書の承認について
 - 第2号 平成30年度事業計画の設定について
 - 第3号 平成30年度賦課金の徴収について
 - 第4号 平成30年度役員報酬について
 - 第5号 借入金の最高限度について
 - 第6号 債務保証の最高限度について
 - 第7号 余裕金の預入先について
 - 第8号 森林経営規程の制定(案)について
- 付帯決議

議長には東由利地区総代の安倍秋雄氏が選任され、平成29年度事業報告や平成30年度事業計画ほか、上程された8議案と付帯決議は慎重審議の結果、全て可決・承認されました。



議長 安倍秋雄氏



《総代会出席者》

本人出席……161人
書面議決……60人
委任出席……0人

合計……221人
総代現在数……287人
出席率……77%

来賓ご芳名(順不同)

秋田県議会議員 小田 美恵子様

秋田県議会議員 三浦 英一様

秋田県議会議員 佐々木 雄太様

由利地域振興局長 鈴木 光宏様

由利本荘市長 長谷部 誠様

にかほ市長 本田 雅之様

由利森林管理署長 仙北谷 彰様

農林中央金庫秋田支店長 高山 一雄様

秋田県森林組合連合会代表理事会長 福井 敬二様

公益財団法人秋田県林業公社理事長 戸部 信彦様

由利本荘市議会議員 佐藤 勇様

にかほ市議会議員 小川 正文様

由利地域振興局農林部森づくり推進課長 代理 林業振興班主幹兼班長 真崎 博之様

質疑応答

●鳥海地区 土田氏

【Q】29年度事業が計画達成に至らなかつた原因と理由、今後の計画を聞かせてほしい。

【A】事業量の注文が全体的に少なかつたことや移動式チップパーの動き出しが遅かつたことなどが要因と考える。今年度は事業の段取りなどにおいて、より計画的に対処するよう務めたい。

【Q】明確な原因をあげ、努力していただきたい。



●東由利地区 阿部氏



【Q】赤字の原因は材の問題と云っているが、問題解決に向かう姿勢が足りないのではないか。また、監査報告の「組織として金融未収金回収に努力されたい」とはどのような事か。

【A】役職員一丸となり意識改革しなければならぬ。また、作業体制を協力事業体を含め、充実させなければならぬと思つている。金融に関しては、木材価格が良い時代に金融貸出を行つてきたが、時代が変わり滞納者が出てきた。早期回収に努める。

【Q】森林経営規程の制定について、森林組合法の改正に伴うところが、関連を説明願う。なお、「この組合」とはどの組合を指しているのか。

【A】森林環境税の導入により森林組合法が改正された事を受け、当組合の森林経営規程を新しく制定することになった。今後の組合事業を円滑に運営するために必要となる。なお、「この組合」とは本荘由利森林組合のことである。

●本荘地区 大庭氏

【Q】製材工場が赤字続きとなつている。改善するためには職員の研修などが必要だが、これからの計画はどうするつもりなのか聞きたい。



【A】スギを販売し組合員にいかに還元できるかが課題。これをカバ―するため製品、原木を販売しなければならぬ。国や県の指導を仰ぎ、財務をしつかりしたうえで、前向きな話を出来るようにしたい。

●本荘地区 畠山氏

【Q】大径木を扱える製材所はあるか。また、CLT利用の現状を教えてください。

【A】末口40cm以上の材を大径木というが、当組合でも大径木を引くことは出来ない。また秋田のCLT工場

は2月に無くなった。



職員人事異動のお知らせ

（平成30年2月16日付）

●林産販売課主事 長谷山 楓
●仁賀保支所主事 小川奈々子

（平成30年4月1日付）

●参事 岡本 善広
●造林課長兼加工課長 武田 一也

●鳥海支所長兼林産販売課長補佐 鈴木 崇

●矢島支所長兼由利支所長 佐藤 智信

●仁賀保支所長兼造林課長補佐 菊地 輝和

●本荘支所長兼造林課長補佐 小野 達也

●岩城支所長兼林産販売課長補佐 今野 正哲

●由利支所主事 猪股 尚弥
●由利支所主事 加藤 有佑

●鳥海支所主事 齊藤 鎌

退職者のお知らせ

（平成30年3月31日付）

●参事 佐藤 建一
●仁賀保支所長 早道 忠徳

（平成30年2月15日付）

●仁賀保支所技能班 伊藤牧紀子
地域林業と森林組合発展のために頑張っていたきました。

退職者の皆様、長い間お疲れ様でした。

平成30年度 造林補助事業について

今年度も組合員の皆様のご理解を得ながら森林整備事業を推進して参りますのでご協力をお願いします。
注) 下記のとおり採択要件がありますので作業前に必ず各支所にご相談ください。

1. 補助金を受けるための採択要件

下記の補助金を受けるためには、「森林経営計画の認定」が必要となります。
※1 施行地 0.10ha以上の実施が必要です。

所有者自ら作業を行う場合の注意点

補助金申請をする際に次の写真データを提出する必要があります。
写真データの無いものは申請ができなくなりますので、作業前に必ず各支所へご連絡をお願いします。
①着手前状況写真 ②作業状況写真 ③完成後の写真 …… 面積に応じた枚数が必要。
※写真データには位置情報が必要となりGPS機能のあるデジタルカメラで撮影する必要があります。

2. 平成30年度 造林補助事業種別補助金額（森林環境保全直接支援事業）

作業種	対象林齢	採択要件・留意事項等	補助金額（1ha当り）		備考
			組合作業	所有者作業	
植栽	スギ	・区分 (スギ、マツ) ①植栽本数 1,500~3,000本/ha ※300本毎の単価	548,000 ~850,000	437,000 ~678,000	※普通苗
	マツ		446,000 ~646,000	356,000 ~516,000	
	広葉樹50	・(広葉樹) ①植栽本数 2,100~2,399本/ha ②植栽本数 2,400本/ha以上 苗高 50、100、150cmで区分	1,169,000 ~1,300,000	933,000 ~1,038,000	
	広葉樹100		1,740,000 ~2,037,000	1,389,000 ~1,559,000	
	広葉樹150		2,828,000 ~3,063,000	2,164,000 ~2,445,000	
下刈	単層林：1~7年生 複層林：1~25年生	・樹高が概ね2.5m以下 ・連年、隔年で区分	135,000 ~159,000	108,000 ~127,000	
雪起こし	2~15年生	・雪圧倒伏率30%(6年以上は50%)以上で採択 ・区域面積×被害率=実施面積で申請	126,000	100,000	
枝打ち	11~30年生	・仕上げ幅 2.0m未満(若齢木) 又は2.0m以上 6.0m以下 ・実施本数 500本~2,000本/ha	55,000 ~155,000	44,000 ~124,000	
除伐(刈払)	11~25年生 天然林は40年生まで	・刈払率 100%以上 ・過去5年以内に補助金を受領していないこと	95,000	76,000	
保育間伐	35年生以下又は伐採対象木の 平均胸高直径18cm未満	・伐採本数率 20%以上 ・過去5年以内に補助金を受領していないこと	45,000 ~122,000	36,000 ~86,000	
間伐	11~100年生	・伐採本数率 20%以上 ・伐採材積率 35%以下 ・標準単価 10m ³ ~80m ³ /haで10m刻み	115,000 ~445,000	92,000 ~314,000	
更新伐	11~90年生	・伐採本数率 56%以上 ・2年経過後、更新完了の確認必要	64,000 ~734,000	51,000 ~586,000	
間伐・更新伐 共通		・5ha以上の集約化かつ10m ³ /ha以上の 搬出必要 ・過去5年以内に補助金を受領していないこと ・材積が確認できる納品伝票等必要 ・間伐と更新伐あわせて5ha以上で申請可			
森林作業道	上記の作業に係わる 作業道の開設	・土構造を基本とし、繰り返しの使用に 耐えるもの ・幅員(2.0/2.5/3.0)m × 地山勾配で区分 ・最急縦断勾配 30% (11.9°)/100m以内 ※路網密度150m/ha以下	604 ~1,906	482 ~1,549	m当

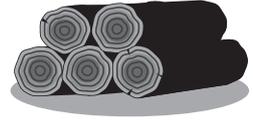
※下刈の申請は8/31が最終となります。

※間伐、更新伐の単価は選木の有無によって変わります。伐倒前に伐倒木にマーキング(選木)する場合のみ選木有りとなります。

※今年度より、補助事業に関する手数料が組合員15%以内(員外30%以内)と変更になっております。



情報コーナー



全国の木材需要と国産材の動向について

今回は、我が国の木材需要量（使われた量）と近年の国産材の動向について、Q & A方式でご紹介いたします。

【Q1】近年、国産材の比率が上昇しているそうですが、どのような状況ですか。

A 国の調査によれば、日本の木材の総需要量（使われた量）のうち、国産材の占める比率は、平成28年度は約35%となりました。林業生産が盛んな昭和50年代でさえ40%弱でしたので、かなりの水準まで回復したと言えます。

【Q2】内容について、もう少し詳しく説明してください。

A 表-1が平成28年度の用途別の需要量と国産材比率の現状を示したものです。総需要量7,807万³mのうち、国産材は2,714万³mで、34.8%となっていますが、用途別では、かなりの差があることがわかります。

特に、パルプ用（製紙用）チップは、総需要量の4割を占めるうえ、外材の比率が高いことから、国産材比率が低い方に引っ張られる要因となっています。

表-1 木材の用途別需要量と国産材比率（平成28年度）

単位：千³m

	製材用	合板用	集成材等用	パルプ用チップ	燃料用	きのこ原木用	合計
国産材	12,182	3,876	1,031	5,266	4,458	328	27,141
外材	13,968	6,372	2,894	26,353	1,350	—	50,936
計	26,150	10,248	3,925	31,619	5,807	328	78,077
国産材比率	(46.6%)	(37.8)	(26.3)	(16.7)	(76.8)	(100)	(34.8%)

※平成29年9月林野庁発行「木材需給表」（平成28年版）より（丸太以外の製品等は丸太材積に換算されている）

【Q3】国産材をめぐる課題は何ですか。

A 近年、国産材比率が伸びているのは、合板用、集成材用、燃料用（チップなど）部門で国産材が増大しているためで、製材用は、ほとんど横ばいで推移しています。

これは、住宅着工戸数の減少などが主な要因ですが、今後、A材需要がますます低下することが懸念されます。

また、スギ等の森林資源は、本県を含め、今後しばらくの間は、国内需要を充分満たすほどの蓄積を備えていますが、林齢構成がいびつで、4齢級（20年生）以下が極端に少ないことから、循環利用に向けた再生林の重要性が叫ばれています。

【Q4】国産材が増えている要因は何ですか。

- A
- ① 中国などの旺盛な丸太需要により、日本へ外材が入りにくい状況になっていること
 - ② 全国各地で製材工場の大規模化が進み、流通構造が広域化していること
 - ③ 再生可能エネルギー固定価格買取（FIT）制度の開始により、林地残材などの利用が促進されていること
- などがあげられます。

【Q5】国産材の今後の目標はありますか。

A 国の目標では、平成37年（2025年）の木材総需要量を7,900万³mと見通したうえで、国産材量4,000万³m（比率50%）を目標としています。

木材市況情報 (平成30年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 ㎡当り価格

樹種	材長 m	径級 cm	4月4日			5月2日			6月4日		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	14下									
		16~22	(2, 988) 10, 758	(2, 785) 10, 027	(2, 886) 10, 391	(2, 916) 10, 497	(2, 722) 9, 799	(2, 802) 10, 086	(3, 199) 11, 516	(3, 157) 11,364	(3, 192) 11, 491
		24~28	(3, 311) 11, 921	(3, 297) 11, 869	(3, 304) 11, 893	(3, 224) 11, 608	(3, 194) 11, 500	(3, 200) 11, 520	(3, 423) 12, 321	(3, 250) 11, 700	(3, 359) 12, 094
出材量・販売量・販売率			838㎡(3,017石)・837㎡(3,013石)・99%			1,104㎡(3,974石)・1,104㎡(3,974石)・100%			1,031㎡(3,712石)・1,031㎡(3,712石)・100%		

4月：ヒバ以外は完売。県外勢の参加もあり、引き合いの強い物件もみられた。単価は弱含みながら、量産工場が量をまとめた。16~22cmで10,000~10,700円/㎡、24~28cmで11,900円/㎡前後。
5月：材質により16~22cmで10,000円/㎡を割り込む物件も見られた。24~28cmもやや値を下げ11,500円/㎡。量産工場が量をまとめ、完売となったが全般的に弱含みでの取引となった。
6月：県外勢の参加で強い引合いとなり、1本売りの高齢樹以外はすべて山形勢が落札し完売となった。価格も強含みで展開し、前月より1,500円/㎡も値を上げる径級もでた。虫害の時期になり、民有林の出材が減少することから、今後の動向に注視。16~22cmで11,500円/㎡、24~28cmで12,300円/㎡。

新採用職員の紹介

新しいメンバーが加わりましてのでご紹介しします。これからどうぞよろしくお願いいたします。



佐々木 真奈

●岩城支所主事

多くの方との関わりを大切に、日々頑張っていきたいです。



伊藤 徹

●岩城支所主事

皆様にはご指導頂く事も多くあるかと思いますが、一日も早くお役にたてるよう真摯に努力してまいります。

技能職員



大石 力

●本所造林班

ケガをしないように安全第一で頑張ります。

技能職員



佐々木 聖

●本所造林班

右も左も分かりませんが、基本を忠実に働いていきます。

技能職員



道川 泰弘

●木材流通センター

林業就業者として、丸太の品質を見極めながら各製材所へ搬入搬出に努めます。

技能職員



志村 雅則

●加工課(バイオ)

災害ゼロを意識し業務に取り組んでいきます。

4月25日(水)象潟町川袋地区の海岸で植樹活動を行いました。当日は多くの地元の方々や農林中央金庫秋田支店長海老沢様、にかほ市長市川様出席の中、盛大に行われました。植樹した場所は風が強く防波堤が砂で埋まるなどしているほか、住宅や道路に飛散する砂に悩まされているとの事でした。そこで農林中央金庫が主体となり今回の植樹活動を企画、当組合も支援をさせていただきました。マツ苗の提供や場所の整備、植樹方法の指導を行い約280本の苗木を植樹しました。

象潟町川袋地区植樹活動

